

項目		チェック内容		A	B	C	D	現状と課題	今後の取組み
①	教育課程	カリキュラム・マネジメント ※教科等横断的な視点で教育内容を組織し、PDCAサイクルを確立しているか。			○			UD教育を軸にし、教科等の横断的な取組を進めている。また、校内研を通して、検証・改善を全職員で行っている。	UD教育と各教科の関連を持った取組と学力向上対策評価シートを職員全体で確認し、課題を共通理解していく。
②	単元	単元の学習過程 ※単元等のまとまりで問題解決的な学習過程を仕組んでいるか。						生徒が興味・関心を持ったり、思考したり、既知の知識を活用したりする学習課題の設定が増えてきている。	生徒が進んで学習課題の設定に取り組めるように、ICTの利活用を中心に、資料の提示方法の工夫をする。
③	1 単位時間	課題提示	単元全体の見通しと現在地の把握 ※児童生徒に学習の道筋を理解させているか、前時の復習をさせているか。					生徒が授業の見通しを持てるように、単元の学習計画を黒板に掲示し、指示の視覚化を進めている。	単元学習計画表を生徒に配布して、いつでも生徒が学習計画を振り返ることができるようにする。
④			本時の学習課題の把握 ※児童生徒に解決すべき本時の課題を明確に把握させているか。					「授業の流れ」パネルを使い視覚化し、本時の学習内容を示して、生徒に見通しを立てさせている。。	継続して、単元学習計画表と「授業の流れ」パネルを使い、本時の学習活動を示すことで、生徒が課題に取り組みやすくする。
⑤		学習活動（課題解決）	個別の課題解決学習(PersonalWork) * ※課題解決の時間や場を確保しているか。					時間を十分に取っている。「～を説明できる。」など、表現力を育成する課題設定を増やしている。	ワークシートの工夫を行う等、生徒全員が課題を解決する意識を持たせ、GWを見越した課題設定を増やしていく。
⑥			グループによる課題解決学習(GroupWork) * ※課題解決に向け、複数意見からひとつの意見にまとめるような話し合いの場を仕組んでいるか。					一単位時間や単元のまとめでの設定を増やし、課題解決ができる生徒が増えてきている。	『学び合い』を通して、生徒全員が課題を解決するという雰囲気を作り、さらにGWの取組を活発にさせる。
⑦			クラスによる課題解決学習(ClassWork) * ※各グループの意見を生かした話し合いを仕組んでいるか。					他者の考えや意見を尊重できる生徒が増えてきた。学級活動での取組が多い。教科での取組をさらに増やしていく必要がある。	周囲の意見を聞き取り感想を書く等、自分の考えを深めるための工夫を取り入れる。
⑧			教師による解説、解決、解答 ※児童生徒の学びを深め、理解不足を補う説明を行っているか。					学習目標と関連した内容や要点を絞って解説を行っている。	ノートやワークシート、宿題等から生徒の実態を把握し、小テストで生徒の理解不足を補う。復習を重視させた課題を増やす。
⑨			子どもの最終的な記述(表現) ※本時の学習課題と対応した記述(表現)をさせているか。					スピーキングテスト等表現力の育成と定着を図ってきたが、表現を時間以内でできる生徒が少なく、記述力をつける必要がある。	「～を説明できる」や「～をわかりやすくする」等生徒が自分で考え、記述できるよう学習課題の設定を工夫する。
⑩		評価	学習の振り返り ※学んだことの整理や自己評価の場を設定しているか。					観点別評価を参考にして、自己評価を単元ごとに丸付けや文章で振り返りをさせて、次時の意欲づけを図っている。	引き続き、単元計画表を用いて自己評価と文章で振り返りをさせたりしていく。
⑪			条件に応じた記述(書く力) ※条件付きの書く活動を授業の中に仕組んでいるか。					字数制限や用語の指定、既習事項との比較などに取り組んでいる。	評価基準をわかりやすく示す。生徒が順序立てて考えながら課題に取り組めるように、ワークシートの構成を工夫する。
⑫	その他	言語活動を活発にする教育環境 ※学習活動を活発にするために掲示物等の教室内外の環境を工夫しているか。						掲示物のほかに、学習目標や課題設定を「～説明できる。」など表現力を育成する場面を増やしている。	掲示物だけでなく、話し合い活動の流れをまとめたシートを用意して、生徒が活用する場面を増やす。
⑬		ノート指導 ※学校や教師の指導の意図を反映させたノート指導を行っているか。						ノート指導とワークシートの作成の際、「学習課題」「まとめ」の欄を取り入れ、生徒に振り返りをさせている。	今後も継続して、「学習課題」「まとめ」の欄を取り入れたノート指導とワークシートの作成を進めていく。
⑭		学習規律 ※児童生徒に学習規律を理解させ、主体的に守らせようとしているか。						話を聞く態度、忘れ物をなくす等、授業前の段階での指導を、学級経営と連動して、徹底して取り組むことができてきている。	学校全体で2分前着席や立腰を取り組んでいくよう、学級活動や生徒会活動を関連させていく。
⑮		家庭学習 ※単元の指導内容や方法と結びついた課題を出しているか。						家庭学習が1時間未満の生徒が約4割いる。毎日の課題として「Q-Friends」を始め、5教科を毎日取り組ませている。	宿題は、教科担当間で連携し量の隔たりを少なくする。
⑯		学習内容の定着 ※学年間・小中間における教科の系統性を見通し、復習の時間を計画的に仕組んでいるか。						「Qタイム」の中で「Qテスト」を行い、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る取組をしている。	「Qテスト」との関連を持たせた内容を宿題にして、家庭学習の習慣付けにつなげていく。
その他の取組み		・家庭学習のさらなる充実を図るために、連絡ノートと自学ノートの内容を兼ね備えた「Q-Friends」を作成し、実践し始めた。また、保護者の確認欄を設け、家庭とのさらなる連携に取り組んでいる。							

* PW・GW・CWについて順序性はない。授業のねらいと児童生徒の実態に応じて組み合わせる。